

たたき台①:佐治地域の西側エリア

学校跡地の
宿泊施設利用

ととのえる「たんぼりベース」

流行を追いかけるのは危ないと思う

継続的に利用

建物を無くしたほうがキャンプ場としてより広く使えて便利だろう

熊や猪は
大丈夫？

たんぼり荘の宿泊棟は解体だけでなく、宿泊施設を運営する人を探してほしい。人気の施設です。

たんぼり荘解体もしかたがないが食事提供できるシステムは残してほしい

たんぼり荘基本情報

目	内容
川が増水するとすぐに逃げられるのか	佐治町林業協業センター たんぼり荘
構造	47年・鉄筋コンクリート造
面積	696.45m ²
機能	宿泊・集会・管理
利用状況	年間利用者数:1,292人 (令和5年度実績)
キャンプ場のターゲット層	・自然豊かな立地 ・山王谷キャンプ場隣接 ・ハザード:急傾斜地 警戒区域

山王谷キャンプ場基本情報

管理 利用状況	内容
	管理棟・炊事棟・トイレ・コインシャワー 年間利用者数:1,718人 (令和5年度実績)

宿泊棟解体、キャンプ場と連携
キャンプ場の管理棟でエリアに関する事務を担当+キャンプ宿泊体験を充実

日常も使える広場

キャンプ宿泊者の
体験価値向上と定常的な利用の増加

キャンプ場・佐治川
と一体的活用！

本館の取り壊し後に小さくてもいいので厨房を設けるように(食事できる)したほうが良い！

たんぼり荘
冬場の利用

たんぼり荘の古い建物を解体して広くすることはイメージも変わって良いと思う

選択と集中の実現

キャンプ場ならではの施設を跡地に作ってみる。ピザ窯とか

テントサウナのような簡単な設備を使いしてはどうか。(川を水風呂として)

自然で、日常も、体験も
機能は一区切りとし、これからは自立し寄れる、ひらかれた場所へ。川右衛門風呂であたたまったり、外開かれたり。建物は小さくなくても、5場をめざす。

整備案

本館は5～10年以内に解体し、跡地は民間活用広場として検討。宿泊棟も建物の使用年数に達する時期に解体し、キャンプ機能の充実へ方針転換。川や自然を活かした活動拠点として整備を進め、五右衛門風呂は川遊び後の利用のために残す。

たんぼり荘は小学生の体験場として残し、五し協と連携していく

現在

大浴場・トイレ
たんぼり荘 別館
たんぼり荘 本館

課題

- ・宿泊棟の利用率低下
- ・建物の老朽化が進行
- ・維持管理コストの負担
- ・限定的な利用方法

たんぼり荘及び別館を解体した後オートキャンプ場を整備してキャンプ場としてののきのう強化につなげる

大浴場、五右衛門風呂は川遊び後の利用を想定して継続的に利用。

宿泊棟は当面継続し、使用年数に達した段階で検討。

本館は耐震性が低いため解体し、広場・民間活用の可能性を検討

廃止する施設を現利用者の方の思いや考え方などの議論が必要

5～10年後

自然環境の活用

川や緑に囲まれた立地を活かした空間づくり

段階的な再編

段階的に整備しながら活用方法を育てる

広場機能の創出

キャンプや川遊びにつながる自由空間へ

生きがいと誇りをもって暮らし続けることができる佐治町に必要な機能、施設を考えていく必要性

コストの削減

建物を縮小し管理の負担を軽減

提案の強み
strength

メリット

- ・自然環境を活かした開放的な空間づくり
- ・キャンプ場との一体的な活用
- ・建物の縮小による維持管理コストの削減

デメリット

- ・宿泊機能がなくなる
- ・室内スペースが減る
- ・一時的に使える建物がなくなる

再編によるコスト削減効果

更新経費(建設、改修、小修繕費)

4.8 億円



たたき台③：佐治地域の東側エリア

地域の教育・生涯学習エリア「ふるいちのまなび場」



現状

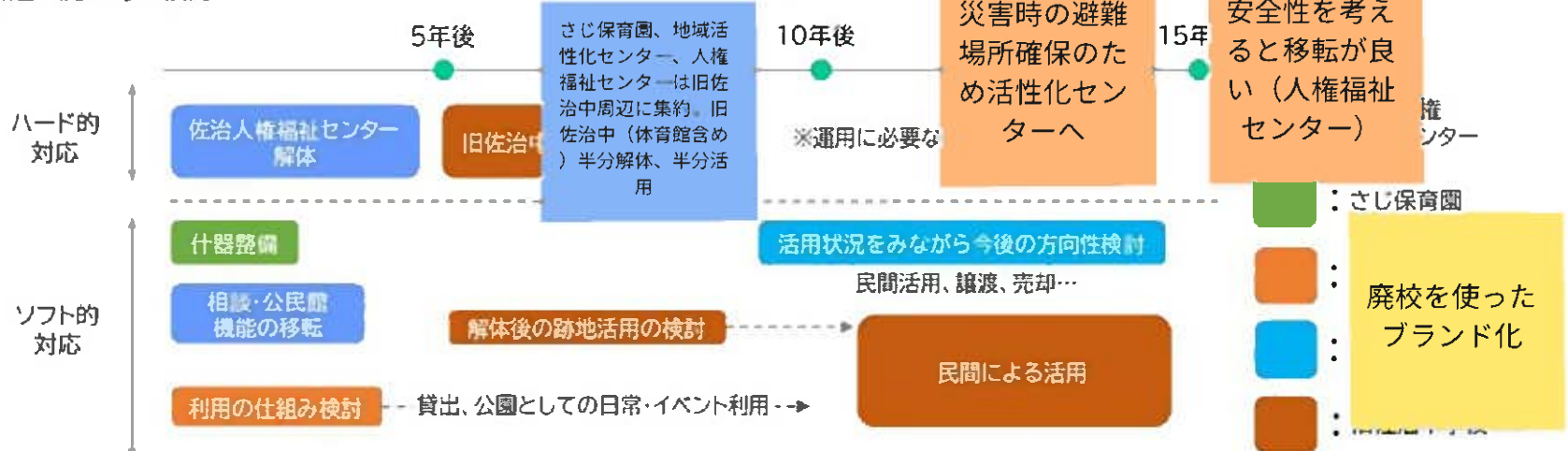
佐治地域の東エリアにおいては、佐治人権福祉センターをはじめ、旧佐治中学校など建設から40年以上の施設がある一方で、地域活性化センターや保育園など比較的新しい施設も存在する。将来を見据え、新旧混在を踏まえた機能の再編が必要とされる。

多世代の学びの集積地

複数の施設や広場、民間の力を結び、子育て・学び・相談の機能を重ね合わせて再編。世代を越えた交流が自然に生まれる、地域ぐるみの学びの場をめざす。それぞれの施設の特徴を生かしながら、日常の中に学びと関わりを循環をつくり、地域にひらかれた多世代の居場所を育てていく。

整備案

地域活性化センター、旧中学校、さじ保育園などが集まるエリアのため、地域の教育・生涯学習拠点を目指す。佐治人権福祉センターは老朽化のため、相談等の機能を地域活性化センターへ移転し、建物は解体。さじ保育園は現在休園中のため、暫定的に子ども・子育て支援機能として活用を進め、多面的に施設活用の可能性を探る。



メリット

- 機能の集積による多世代交流
- 民間との連携により、新たな活動や賑わいの創出が期待
- 既存施設の有効活用
- 保育・学童・生涯学習が連続的につながることによる、地域の教育資源の強化

デメリット

- 保育園や学童などの再開・整備には、段階的な取り組みが必要
- 複数施設を活かす再編となるため、運営方法や利用ルールの整理が必要
- 広場は利用者や団体ごとに求める使い方が異なるため、調整に工夫が必須

再編によるコスト

更新経費（建設、

2.5 億

下の地域は用瀬町と合わせて検討されてはどうか？

たたき台②：佐治地域の中央エリア

経費はかかるが、不要なものを削減して良いと思う

歴史と自然が重なり合う暮らし観光の入口であり、地域のまある。地元の力、民間の力、行けるやかにつながり、いくつも場が広がりをもって生まれて歴史・観光・地域振興—これ年を描く、ひとつのはじまり

引き続き指定管理者と連携し、古くから伝わる和紙作り技能・技術・生を観光資源として活用してい

佐治小学校の10年後は？

民間活用

西佐治会館

解体

つどいの広場と一体的にサウンディング。西佐治会館は跡地を民間活用の余地があれば貸付or売却

B&G海洋セン

機能移転

コミュニティセンターは公民館を兼ねている。使いやすい会議室にしてほしい

民俗資料館は土蔵づくりで蔵の形態を残し珍しい。残してほしい。

民俗資料館跡地にカフェ等を誘致するのであれば装飾に展示品を活用できないか？

佐治民俗資料展示館

民俗資料館

解体

民間カフェ等誘致の見込みは？

コミュニティセンター

プラザ佐治の景観を活かす会と連携し、地域振興・観光資源へ！

プラザ佐治

施設が多すぎて役割を一体化すると行きやすくなるのでは？

佐治町料理実習施設

料理実習施設の解体をして小学校の調理室は機能的に無理では？

料理実習室はよく利用しています。小学校の共同利用をうまくできるように考えてほしい

まとめるかわりにサービスアップ

料理実習室の建物を解体し、その機能を佐治町コミュニティセンターを整備して補う

保健センターの機能は健康の里へ機能をもっていか、支所へもっていく

民間カフェ等の誘致は本当に可能なのか。（約1か月前にカフェが閉店）

民間活用の余地が貸付or売却。アスと連携。

アストロ体験施設の利用、イベント事

コスモ

さじアストロパーク

一部展示品移転の検討

学習施設、実習施設を廃校を利用して集約してはどうか

近い場所に移転するなら今までとあまり変わらないそう

き、つな

料金を無料化

のま

中央に位置し、公共施設がまとまって立地する50年前後の建物も多く、地域の文化や歴史を伝えてきた。一部では地域住民や民間による活用も始まっており、今後の使い方を見直す時期に来ている。

近隣施設と連携した多様な使い方

それぞれの施設が持つ立地や特徴を活かしながら、役割を見直していく。つどいの広場を中心にした一体的な活用や、民間活用のサウンディング、歴史ある建物とオープンスペースなど。建物の行方を考えるだけでなく、地域にひらかれた風景や過ごし方を、住民や民間と一緒に育てていく。

整備案

老朽化した施設は、保健センターのように支所への移転などで対応。旧保育園や会館など活用余地がある建物は、まずサウンディングを実施し、民間貸付や売却も視野に。活用が難しい施設は段階的に解体し、跡地は広場や新たな活動の場として活かしていく。

コミュニティセンターへの移転はスペース的に可能か？コミセンも40年経過している

高齢者、障がい者、児童等の複合で考えてみては

耐震性能が低い施設は廃止

建物は廃止しても機能は移転維持

活用の可能性がある施設はまずはサウンディングから

各地に集える場を分散配置

サービス・コミュニティの充実！！

エレベーター施設がほしい

メリ

保健センターを総合支所に移転するとより使いやすくなるため良いと思う

婦人の家の機能も小学校とかに持たせることはどうか。旧給食センターなど

料理実習を利用して行っている。高齢者対象とした食事サービスが心配。小学校では無理と思う。

デメリット

・使い方が決まらないまま解体、場合の対応と負担増、場所が狭くなるからいいと思う

保健センター、料理実習施設と合わせて老人福祉センターも老朽化しているのでは？

老人福祉センターの活用はどうなる？

再編によるコスト

更新



10.8 億円